



様式第4号（第7条関係）

令和元年11月 5日

東かがわ市議会議長
橋本 守 様

東かがわ市議会議員
(会派・個人・その他)

氏名 大藪 雅史



行政視察等報告書

1	日時	令和元年10月26日～27日	
2	参加者	大藪雅史	
3	研修目的等	内 容	研修場所
		地域におけるくらしの足を考 える。	東洋大学白山キャンパス
		公共交通政策等	
4	研修・調査内容	日常生活での様々な移動に困難を抱えることで、地域社会から取り残されかねない人々の移動を支える手段を様々な団体、地域社会等連携し、新たなくらしの足を創出しようとしている全国的な取り組みを研修した。	
5	研修成果	添付資料参照	
		(感想・今後の取り組み等)	
6	費用	82,600円	

※領収書(交通費・宿泊費の明細が分かるもの)、研修資料を添付してください。

くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2019 に参加した研修成果

今回3回目の参加となる。このフォーラムは市民、行政職員、研究者、技術者公共交通事業者、福祉、介護従事者、など多くの関係者が全国から集まり、地域の課題や実情を共有し連携するということで毎年開催している。都市型公共交通網政策から地方の交通空白地運送、コミュニティ輸送、近未来的交通手段まで幅広く議論され、傍聴だけでなくオープンカンファレンス、ポスターセッション、グループディスカッションと自身の考えを述べる機会が多く、実りの多い二日間であった。

我々のグループでは費用のことが話題になり、大学等研究者には行政がもっと支出すべきとの意見であり、民間事業者は採算のとれる継続的な政策が重要との意見があるなどした。研究開発と実際の運航費用は別に考えるべきとの提案をし、利用者にとっての公平性も考えなければならないことも述べた。

グループでの討論の後他のグループから公平性についての質問があり、私なりの考えを答弁した。

様々な地域での多様な取り組みを議論し合いながら感じたことは、二つの方法のどちらを選ぶかを決めてからになる。一つは言い方は悪いが行政、議会がパフォーマンスで公共交通網作成を行い赤字を増やし続ける福祉バスともう一つは自立し継続できるコミュニティ交通であるが、こちらは担い手となる人や組織が必要である。

いずれにしても本市で選べる方法は多くはなく本気で行う気があるなら来年度からでもテスト運行はできるはずである。

一度はこのフォーラムに行政職員、議員等参加することを進めたい。